

れていると考えられた。本種は全国でも数カ所しか現存する生息地が知られておらず、また県内でも調査の余地がかなり残されていることから鑑みて、今後の早急な調査と保全策が望まれる。

末筆ながら、本種を同定していただき、本報への報告を勧めて下さった石川ふれあい昆虫館の渡部晃平氏、本種の発見の契機となった貴重な池に案内をしていただいた倉敷市の守安敦氏、引用文献についてご教示下さった三重県の秋田勝己氏と広島県の秋山美文氏、大塚健之氏、香川県の藤本博文氏、長崎県の松尾照夫氏に厚くお礼申し上げます。

### 引用文献

- 秋田勝己, 2008. 志摩市大王町船越池のゲンゴロウ類と捕食性外来動物について. 甲虫ニュース, 162: 31-34.
- 青野孝昭, 1981. 倉敷の自然(種松山山系) 4. 種松山山系の甲虫. 倉敷市衛生局環境部, 69-83.
- 藤本博文・上手雄貴, 2003. 香川県善通寺市与北町で採集した水生甲虫類. 甲虫ニュース, 143: 16-17.
- 深川元太郎, 2015. 長崎県本土の水生甲虫類(コップゲンゴロウ科・ゲンゴロウ科・ミズスマシ科・ホソガムシ科・ダルマガムシ科・ガムシ科)の記録. 長崎県生物学会誌, 76: 24-44.
- 濱田将大・木谷昌喜・島添信一・井上大輔, 2008. 東広島市の水生昆虫. 広島虫の会会報, 47: 1-6.
- 池竹弘旭, 2012. キボシチビコップゲンゴロウを愛知県名古屋で採集. ホシザキグリーン財団研究報告, 15: 10.
- 井上大輔・中島淳, 2009. 福岡県の水生昆虫図鑑. 福岡県立北九州高等学校 魚部, 195 pp.
- 小阪敏和, 2004. 東広島市の甲虫類(2) -水生の甲虫-. 広島虫の会会報, 43: 19-22.
- 森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版図説 日本のゲンゴロウ. 文一総合出版, 東京, 231 pp.

(末長晴輝 710-0807 倉敷市西阿知町 833-8  
サンシャイン A205)

### 【短報】外来種ムネアカオオクロテントウを京都府で発見

ムネアカオオクロテントウ *Synona consanguinea* (Poorani *et al.*, 2008) は、中国、台湾、ミャンマー、タイ、ベトナム等のアジア地域に分布するテントウムシ科オオクロテントウ属に属する甲虫である (Poorani *et al.*, 2008). インドにおいて本属のテントウムシは、マメ科植物の主要な害虫であるマルカメムシ類の天敵として知られている (Poorani *et al.*, 2008). 国内では、2014年に東京都で初確認されて以降 (中西ほか, 2016), 神奈川県、群馬県、大阪府、奈良県で報告されるようになった (中西ほか, 2016; 齋藤ほか, 2016; 伊藤・古山, 2017). 今回、京都府の木津川市において本種を採



図1. 木津川市の個体 (左: 背側; 右: 腹側)。



図2. 採集地点のクズ群落 (木津川市市坂弓田付近)。

集したので報告する。

2exs., 京都府木津川市市坂弓田, 30. IX. 2017.; 1ex., 京都府木津川市城山台, 30. IX. 2017, 池田採集・保管。

今回、ムネアカオオクロテントウが採集された地点は、高架下や新興住宅地周辺のクズ群落内であり、そこにはマルカメムシが大量に生息していた。筆者は、木津川市で本種が採集される以前に、奈良市でも採集していたことから、近接する両地域間の侵入や移動は比較的容易であった可能性が示唆される。異なる地域への侵入方法として、当然、自らの飛翔による分散が考えられる。しかし、今回採集された地点はすべて、工事現場付近や比較的交通量の多い場所であった。そのことから、車両の移動や資材の運搬等にもともなう非意図的導入であった可能性が示唆され、広域分散が危惧される。一方、わが国におけるムネアカオオクロテントウの分布は、現時点で関東地方と近畿地方に限られている。詳細な侵入経路や在来生態系への影響等を解明していくことで、本種に対する効果的な防除手段の検討にもつながる。

末筆ながら、文献提供頂いた大阪市立自然史博物館の初宿成彦氏と、投稿にあたり有益なご助言を賜った近畿大学農学部の澤島拓夫、早坂大亮の両博士に厚くお礼申し上げます。

## 引用文献

- 伊藤ふくお・古山 暁, 2017. 速報 奈良県のムネアカオオクロテントウ. ならがしわ, (172): 1-2.
- 中西康介・松原 豊・青井幸太郎・持田浩治・日高直哉 2016. 外来種ムネアカオオクロテントウを東京都および神奈川県で発見. さやばねニューシリーズ, (21): 58.
- Poorani, J., A. Ślipiński & R. G. Booth, 2008. A revision of the genus *Synana* Pope, 1989 (Coleoptera: Coccinellidae: Coccinellini). *Annales Zoologici*, 58 (3): 579-594.
- 齋藤琢巳・春澤圭太郎・初宿成彦, 2016. 大阪府における *Synana* 属のテントウムシの記録. 月刊むし, (539): 46-47.

(池田 隆 631-8505 奈良市中町 3327-204  
近畿大学農学部保全生態学研究室)

## 【短報】福井県におけるカワラハンミョウの記録

カワラハンミョウ *Chaetodera laetescrita* (Motschlsky, 1860) は河川改修や護岸工事の影響、砂浜海岸の縮小やレジャーによる砂浜利用等の影響で生息環境が悪化し、全国的に絶滅の危険性が高まっていることから、環境省のレッドリストで絶滅危惧 IB 類に選定されている（環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編, 2015）。近隣の石川県では、本種の生息環境が著しく悪化しているとされるものの、比較的近年の記録があるが（徳本, 2001；石川県野生動物保護対策調査会, 2009）、福井県では 1982 年の記録を最後に確認されていなかった。改訂版 福井県レッドデータブックでは本種は絶滅危惧 I 類に選定されているが、実質的には県内絶滅も懸念されていた（佐々治・斉藤, 1985；福井県安全環境部自然環境課編, 2016）。

筆者らは、福井県北部においてカワラハンミョウを確認したので下記の通り報告する。なお、現状では本種の保全対策が整っておらず、採集圧による絶滅の危険性もあることから、生息地ならびにその環境の詳細な記述は差し控える。



図1. カワラハンミョウ。

- 1ex., 2. VIII. 2017, 岩佐康平採集・保管；1ex., 19. VIII. 2017, 岩佐康平採集・福井市自然史博物館保管 (FCMNH-JI23000)；1ex., 25. VIII. 2017, 梅村信哉採集・福井市自然史博物館保管 (FCMNH-JI23001)；1ex., 26. IX. 2017, 梅村信哉採集・福井市自然史博物館保管 (FCMNH-JI23157 図 1)。

今回カワラハンミョウが確認されたのは、福井県北部の非常に限られた地域であり、砂地やその周辺の道路を歩く姿が複数確認されている。今後、周辺地域を含めた調査の継続によりカワラハンミョウの生息範囲を特定し、個体数のモニタリングを実施するとともに、早急な保護対策の実施が望まれる。

末筆ながら、発表を助めていただいた福井大学教育学部の保科英人准教授、原稿をお読みいただき有益なご助言をいただくとともに、文献をご恵与いただいた石川県ふれあい昆虫館元館長の富沢章氏にお礼申し上げます。

## 引用文献

- 福井県安全環境部自然環境課編, 2016. 改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動物. 536 pp. 福井県安全環境部自然環境課.
- 石川県野生動物保護対策調査会, 2009. 改訂・石川県の絶滅のおそれのある野生動物 石川県レッドデータブック (動物編) 2009. 446 pp. 石川県環境部自然保護課.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編, 2015. レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生動物 - 5 昆虫類. 509 pp. ぎょうせい.
- 佐々治寛之・斉藤昌弘, 1985. 甲虫目 COLEOPTERA, 79-245 pp. 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編, 福井県昆虫目録, 404 pp. 福井県.
- 徳本 洋, 2001. 石川県内におけるカワラハンミョウの分布に関する記録. とっくりばち, (67): 2-4.

(梅村信哉 918-8006 福井市足羽上町 147  
福井市自然史博物館)

(岩佐康平 918-8006 福井市足羽上町 147  
福井市自然史博物館友の会)

## 【短報】口永良部島におけるシロモンオオヒゲナガゾウムシの記録

シロモンオオヒゲナガゾウムシ *Mecotropis kyusyuensis* (Nakane, 1963) は、四国、九州、五島列島、屋久島、種子島、奄美大島、沖縄島に分布するヒゲナガゾウムシ科の甲虫である（小島・森本, 2004）。筆者の一人である藤本はこれまで記録のなかった口永良部島から本種を採集したので報告する。

- 1♂, 鹿児島県熊毛郡屋久島町口永良部島寝待, 25. VII. 2017, 藤本採集, 飯田保管 (図 1)。